

<b>〔科目名〕</b> 地形地理情報論	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目
<b>〔担当者〕</b> 三浦 英樹	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 講義後または適宜(事前のメール連絡で時間調整します) <b>場所:</b> 研究室(大学院棟 1203 室)	<b>〔授業の方法〕</b> 講義と演習
<b>〔科目の概要〕</b> 近年の深刻化する地球環境問題や大規模な自然災害の多発などにより、地域における人々の暮らしや、それを取り巻く環境には様々な課題が生じています。これらに対応するためには、地形学や地理空間情報学を活用して、人間が生活する基盤となる地形の特徴や成り立ちを理解し、合わせて地域の自然環境や社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して、可視化した地図として表現し、人間の営みと関連付けて考察することが必要不可欠となります。この講義では、これらの知識や方法を身につけるため、以下の 4 つの内容を中心に展開します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 人間の生活舞台である地球表面の形態の成因と見方を理解するために、平野、台地、丘陵、山地、火山等の地形と第四紀の地殻変動・気候変動との関係、および地形発達史の考え方を説明すること</li> <li>② 青森県で見られる代表的な自然景観の意味や成り立ちを理解するために、青森県の主要地域の自然環境や人々の暮らし、伝統文化、自然史、農林水産業・鉱工業などの産業、人工施設の配置・立地、防災・減災、観光等と地形発達史との関係を説明すること</li> <li>③ 地理空間情報の基本と一般図である地形図の基本と読み方を習得するために、地球上の位置を座標によって表す測地系、地図投影法、等高線、地図記号等の概要について説明すること</li> <li>④ 自然地理的・社会経済学的な現象を地形図上に可視化した主題図や統計地図の作成方法を身につける前段階として、地理情報システム(GIS)の基礎と使い方の初歩を説明すること</li> </ol>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 地表の形態である地形は、人間が日々の生活を行う場であり、人間の生活、文化、民俗、経済活動とも密接に関係しています。地形を空間的・歴史的に認識し、様々な自然現象・社会現象と地形との相互関係を地図を活用して把握することは、地域の自然環境や人文環境に関する理解の深化、自然を活かした環境作りのための方策の検討、社会的な課題に対する政策提言のための基礎資料の作成など、地域創造への新たな発想やアイデアをもたらす源泉となります。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> この講義では、以下の内容に到達することを目標とします。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 一般図である地形図の概要と読図方法を習得すること</li> <li>② 第四紀の気候変動と地殻変動の概要を説明できること</li> <li>③ 主要な地形のでき方を理解し、説明できること</li> <li>④ 地理情報システムの概要と基礎を習得すること</li> </ol>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 新規担当のため、なし。		
<b>〔教科書〕</b> ありません。各回で、必要に応じ、資料を配付します。		
<b>〔指定図書〕</b> ありません。		
<b>〔参考書〕</b> 貝塚爽平ほか編著 (2019) 『写真と図でみる地形学 増補新装版』。東京大学出版会。 小池一之ほか編著 (2005) 『日本の地形 3 東北』。東京大学出版会。 小島圭二ほか編著 (1997) 『日本の自然 地域編 2 東北』。岩波書店。 西城 潔・藤本 潔・黒木貫一・小岩直人・楮原京子(2020) 『地形でとらえる環境と暮らし』。古今書院。 武内和彦・鷺谷いずみ・恒川篤史編著 (2001) 『里山の環境学』。東京大学出版会。 羽田康祐(2021) 『地区リテラシー入門』。ベレ出版。 伊藤智章(2016) 『地図化すると世の中が見えてくる』。ベレ出版。 矢野桂司 (2021) 『GIS 地理情報システム』。創元社。 半井真明 (2022) 『まちの課題・資源を可視化する QGIS 活用ガイドブック』。学芸出版社。 中島 円(2021) 『その問題、デジタル地図が解決しますーはじめての GIS』。ベレ出版。 杉本智彦(2022) 『地形を感じる地図アプリ スーパー地形公式ガイドブック』。山と溪谷社。		

愛知大学三遠南信地域連携センター編 (2021) 『地域研究のための空間データ分析入門』. 古今書院.  
愛知大学三遠南信地域連携センター編 (2022) 『地域研究のための空間データ分析 応用編』. 古今書院.

#### 〔前提科目〕

必須ではありませんが、教養科目の「地球科学」を履修していることが望ましい。  
専門科目の「自然史・地理情報と地域創造」を履修する予定の方は、この科目を先に履修して下さい。

#### 〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

- ① 授業の最後には、「リアクションペーパー」の時間を設けて、提出してもらいます。「リアクションペーパー」には、授業を受けて感じたこと、自分が考えたこと・感想、講義内容への質問や意見などを自由に記述してください。文章は、他人が読むことを前提に、わかりやすく論理的に書いてください。おもしろい、または重要な意見・質問は、できるだけ、次の授業の冒頭で紹介・回答します。
- ② 期末に行う「試験」の内容は、地形学と地理空間情報学の内容から出題します。暗記することよりも、論理的な考え方を重視した出題になります。

#### 〔評価の基準及びスケール〕

- ① 「リアクションペーパー」では、記述内容のわかりやすさや論理性、および授業内容への関心や取り組む姿勢を総合的に評価します。
- ② 「試験」では、地形学と地理空間情報学の内容について、正しく論理的に理解して、説明できるという観点で評価します。
- ③ 総合的な評価は、「リアクションペーパー」の評価 60%、「試験」の評価 40%の比率で、両者を合算して、合計 100 点満点(A:80 点以上、B:70~79 点、C:60~60 点、D:50~59 点、E:50 点以下)で評価します。

#### 〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

私たちが、毎日、目にしている、地形を中心とした風景には、歴史と意味があります。そういった風景や様々な現象を合理的に表現するための道具として、地図があります。風景と地図を読むことができるようになると、自分のなかの時間と空間の世界がぐっと広がります。この興味深い世界をできるだけわかりやすく解説して、理解してもらいたいと思います。是非、風景と地図を見ること、読むことを好きになって下さい。そして、さらには、その背景にある、地域に存在する様々な社会の仕組みや課題を考えるきっかけをつかんで、自分のなかで地域研究の「良き問い」を立てられるように発展させて欲しいと思います。

#### 〔実務経歴〕

該当なし。

#### 授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション: 地球規模・地域研究の課題と地形学・地理空間情報学の役割と意義 内 容: 全体のイントロダクションとして、この講義の目的と内容、背景を概説します。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 地形の見方および東北地方の地形の配置と生活 内 容: 地形をどのように把握するのかを解説し、日本列島と東北地方の地形の配置を概説します。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 地形形成の背景となるプレートテクトニクスと地殻変動の基礎知識 内 容: 地形を形成する営力としての地殻変動の仕組みとそれによってつくられる地形の見方を解説します。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 地形形成の背景となる地球の第四紀の気候変動・海面変動の基礎知識 内 容: 地形形成と地形発達史の枠組みとなる第四紀の気候変動と海面変動の歴史について解説します。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 地域研究の基盤となる 地形の 見方: (1)川がつくる平野の地形と人々の生活・土地利用 内 容: 河川の営力によって作られる地形のできかたと見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察します。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 地域研究の基盤となる 地形の 見方: (2)海がつくる平野の地形と人々の生活・土地利用

	<p>内 容: 海と風の営力によって作られる地形のでき方と見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域研究の基盤となる地形の見方: (3) 台地と丘陵の地形と人々の生活・土地利用</p> <p>内 容: 台地や丘陵の地形のでき方と見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域研究の基盤となる地形の見方: (4) 山地の地形と人々の生活・土地利用</p> <p>内 容: 山地の地形のでき方(地殻変動、氷河、凍土、重力の営力を含む)と見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域研究の基盤となる地形のでき方と見方: (5) 火山の地形と人々の生活・土地利用</p> <p>内 容: 火山の営力によって作られる地形のでき方と見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森県各地域の地形発達史とその地理学・地域研究における応用</p> <p>内 容: 青森県に見られる特徴的な地域の風景を取り上げて、その地域の地形発達史を解説し、人々の生活、産業、文化との関連性を考察します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地理情報システム(GIS)の概要と基礎、地形図と等高線、緯度経度の仕組みと全球測位衛星システム(GNSS)、地図の投影方法</p> <p>内 容: 地形図から何がわかるか、地図の歴史と様々な種類の地図、地形図の特徴と読み方について解説します。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域研究における地理情報システム(GIS)とその応用: (1) 地理院地図と Google Earth とスーパー地形の概要</p> <p>内 容: 地理情報システムの地理院地図と Google Earth とスーパー地形の概要を説明し、その基本的な使い方を学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域研究における地理情報システム(GIS)とその応用: (2) 地理院地図と Google Earth とスーパー地形の活用</p> <p>内 容: 地理情報システムの地理院地図と Google Earth とスーパー地形を用いて、様々な地図や地形を表現する方法を学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域研究における地理情報システム(GIS)とその応用: (3) QGIS と地図・地形の表現</p> <p>内 容: 地理情報システムのQGISを用いて、自然環境や土地利用等の主題図を表現する方法の基礎を学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域研究における地理情報システム(GIS)とその応用: (4) QGIS と自然環境・土地利用変化の把握</p> <p>内 容: 地理情報システムのQGISを用いて、地域統計データを用いた主題図を表現する方法の基礎を学びます。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>80分の筆記試験を実施します。</p>